参考となる成果整理表

夏秋キュウリのつる下ろし栽培における「クラージュ 2」と更新型「ニーナ Z」の比較

福島県農業総合センター　作物園芸部　野菜科

1　部門名

野菜－キュウリ－整枝・剪定

2　担当者名

増戸めぐみ

3　要旨

夏秋キュウリのつる下ろし栽培では、草勢が強い品種を使用すると、枝の伸長が早く誘引時間が増加し、収穫節位低下により作業性が悪化することが問題となっている。前報で、「ニーナ Z」は、更新栽培において減収せず誘引時間を短縮できることを報告した。本研究では、草勢が強すぎず、節間が比較的短い「クラージュ 2」を用い、収穫枝を更新せず栽培した結果、「ニーナ Z」の更新栽培と収穫節位、誘引時間、可販果収量が同等であることを明らかにした。

（1）収穫節位は収穫枝を更新しない「クラージュ 2」と、収穫枝を更新する「ニーナ Z」で、同様に推移し、収穫位置を地上高 1m 程度に維持することができた（図 1）。
（2）誘引作業時間、可販果収量に差は見られなかった（表 1）。
（3）「ニーナ Z」は収穫位置が地上高 1m よりも下がった場合に収穫枝を更新した。
（4）5 月上旬定植、ロックウールマットを使用した隔離床養液栽培、地上高 2m の位置に成長点を誘引するつる下ろし栽培での結果である。

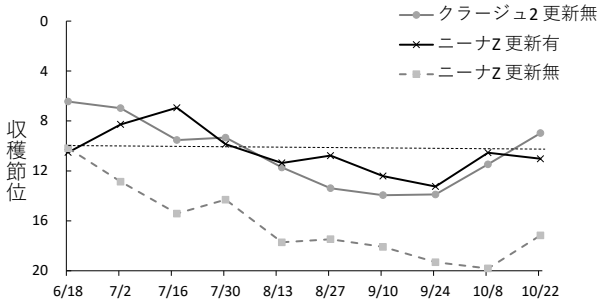


図 1　成長点を 0 として数えた収穫節位の推移
※収穫節位 10（点線）が地上高 1m 程度

表 1　誘引作業時間と収量

区名	誘引作業時間[z]	総収穫果数	うち可販果数	うちA品果数	可販果率	可販果収量[y]
	（時間/10a）	（本/株）			（%）	（t/10a）
クラージュ 2 更新無	464	299	244	182	81	27
ニーナZ 更新有	466	299	228	170	76	25
ニーナZ 更新無	527	293	202	140	74	22

z 7/24～9/12の間に行った誘引作業時間（作業者2名、キュウリ栽培経験2～10年目の30～50代女性）の合計。1,111/10aとして算出。
y 可販果収量は株間50cm　1,111株/10a、1果100gとして算出。

4　成果を得た課題名

（1）研究期間　令和 7 年度
（2）研究課題名　安全で効率的な新農薬・新資材の実用化〔新農薬等に関する試験研究事業〕

5　主な参考文献・資料

（1）夏秋作型における施設キュウリの簡易な隔離床養液栽培マニュアル(第 2 版) ,2026
（2）「ニーナ Z」の夏秋キュウリのつる下ろし栽培で収穫枝を更新すると減収せずに誘引時間を短縮できる,令和 7 年度参考成果